

# 正論

## 安倍晋三の遺志を継げ

まかれた種を次の世代につなげ 阿比留 瑠比

時代先取りした不世出の指導者 田久保忠衛

日本には稀有な戦う政治家 金美齢

皇室守り抜いた尊皇の気概 竹田恒泰

念願は憲法改正して普通の国になること 屋山太郎

命懸けだった闘いの記録 西岡力

救世主か松陰の生まれ変わりが 八木秀次

岸田政権がなすべき アベノミクスの完遂 岩田規久男

米国内の評価を一変させた祖国愛 古森義久

絶対に言えなかった「第二次安倍政権」 森喜朗

漫画 『墓標なき草原』 ② 牧畜民 パイワル 清水ともみ

日米訓練に水差す岸田首相の感度疑う 正論編集部

### 特集 安倍晋三の遺志を継げ

p.23~

#### まかれた種を次の世代につなげ

産経新聞政治部編集委員  
兼論説委員 阿比留瑠比 24

#### 時代を先取りした不世出の指導者

杏林大学名誉教授 田久保忠衛 30

#### 日本には稀有な戦う政治家

評論家 金美齢 38

#### 皇室を守り抜いた尊皇の気概

作家 竹田恒泰 44

#### 念願は憲法改正して普通の国になること

政治評論家 屋山太郎 52

#### 命懸けだった闘いの記録

麗澤大学客員教授 西岡力 56

#### 日本の救世主か松陰の生まれ変わりが

麗澤大学教授 八木秀次 64

#### 米国内の評価を一変させた祖国愛

麗澤大学特別教授 古森義久 72

#### 岸田政権がなすべきアベノミクスの完遂

前日銀副総裁 岩田規久男 80

#### PB黒字化目標 完全撤廃へ結束せよ

産経新聞特別記者 田村秀男 88

#### アジア諸民族への深い理解と支持

静岡大学教授 楊海英 94



# 「反アベ無罪」に寛容すぎた社会

## 台湾に走った激震

チャイナ監視官

ジャーナリスト 林智裕

102

産経新聞台北支局長 矢板明夫

108

# 国際政治変えた三つの業績

## 安心感失った後の外交・安保政策を憂う

評論家

江崎道朗

114

麗澤大学客員教授  
元空将

織田邦男

122

## 全てを背負った要の喪失

### 李登輝先生への手紙

政治学者 岩田温

130

## 絶対に言えなかった「第三次安倍政権」

連載「元老の世相を斬る」

元内閣総理大臣 森喜朗

142

月刊「正論」編集部

150

## 日米訓練に水差す岸田首相の態度疑う

NTTチーフサイバーセキュリティ  
ストラテジスト

松原実穂子

157

## 日本のサイバー能力は本当に低いのか

東京大学大学院特任教授 有馬純

165

## 琉球国尚家当主 沖繩の人々は先住民族にあらず

第1尚氏23代当主

尚衛×ジャーナリスト 仲村覚

173

## 漫画 墓標なき草原

② 牧畜民 バイワル

74ページ一挙掲載!



漫画家 清水ともみ

208

## 「在日ウイグル人証言録①」 政府は人権状況を調べよ

評論家

三浦小太郎

284

〔証言1〕ハイレット〔男性〕「発信が許されない社会」〔証言2〕グリ仮名〔女性〕「国際社会の抗議は効いている」〔証言3〕アリーブ・ミジト〔男性〕「ウイグル人の意識を持ってば罪」

# 琉球国尚家当主 沖繩の人々は先住民族にあらず

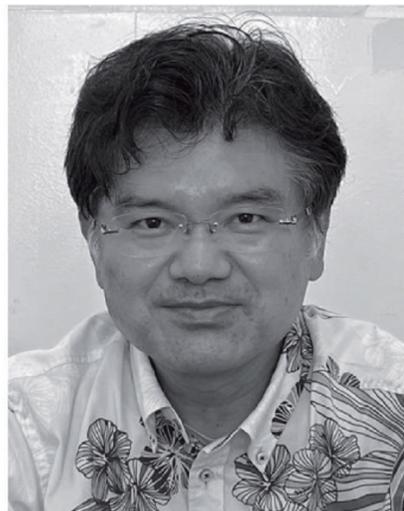
第1尚氏23代当主 尚衛×ジャーナリスト 仲村覚

仲村 琉球国の国王の末裔である尚衛当主は今年  
の元日に沖繩の地方紙「八重山日報」に、沖繩  
県が祖国復帰を果たしてから五十周年を迎えるに  
あたり、祖国復帰が沖繩県民自身を選び取った歴  
史である旨の長い文章を寄稿されました。廃藩置  
県後、尚本家の当主がこうした形で自らの考えを  
公の場で発信されるのは初めてのことです。大き  
な意味があったと考えています。まずはじめに尚  
当主がなぜ公の場で発信をし始めたのか。その理  
由と文章に込めた思いについてお尋ねします。

家ですし、その反対も言えるわけです。かつては  
尚家という家が琉球国を治めてきた事実があるの  
ですが、一八七一（明治四）年の廃藩置県後、さ  
らに戦後と、尚家と沖繩の関係は希薄になってし  
まっています。それがまずひとつの理由です。さら  
に最近の話ですが、歴史学者と称する方々の間  
に、明らかにいい加減な発信をしている人たちが  
散見されます。そうした方々に対しても正しい琉  
球の歴史を認識していただければと思います、私自身  
が発信することになったわけです。



しょう・まもる 昭和25年生まれ。琉球国の尚家の第22代当主で侯爵だった尚裕氏の長男。玉川大学を卒業後、サムフォード大学でMBAを取得。平成元年5月、一般社団法人琉球歴史文化継承振興会を設立、代表理事を務める。



なかむら・さとる 昭和39年生まれ。昭和54年、陸上自衛隊少年工科学校（横須賀）入校、卒業後航空部隊に配属。平成3年退官。企業勤務を経て日本沖縄政策研究フォーラムを設立し理事長。

の歴史認識が確定される年と言っているといいでしょう。令和元年五月に私は一般社団法人を設立して、正しい琉球の歴史文化を継承し普及していく活動に努めてきました。祖国復帰五十年という節目の年を迎え、今一度、その意味を沖縄の県民のみならず、日本国民にも改めて思い起こしてほしい。祖国日本への復帰は百万県民の悲願でした。先人の功績に対する感謝を忘れてはなりません。私自身もこれを機に更に一步踏み出して、いろんな機会に発信していこうと考えています。

仲村 廃藩置県で尚家による琉球統治は終わりました。それは、全国に約三百あった諸藩の当主が受けた扱いと多くの点で全く同じですが、現在の尚家は、政治的権限も責任も無い一般人でありながら、他藩の藩主の末裔とは異なる重い役割があると認識しています。それは、琉球国時代の歴史、文化を正しく継承するという役割です。

廃藩置県後の尚家は、清国との既得権益を取り戻したい勢力に利用されるのを避けるため、沖縄を離れて政治との距離をとってききましたが、現在は逆に尚家が沖縄の政治や歴史と距離をとって

ることをいいことに好き勝手なことを言い始める人が出てきたのだと思います。だから、今度は尚本家が沖縄に戻って琉球の本家の歴史と文化を継承しなければならぬ時が来たのだと思います。これは、尚家にしかできない重要な役割と認識しています。

### 琉球史に尚本家の位置づけ

仲村 では最初に、基本的なことを確認させていたいただきたいのですが、琉球国の歴史では、尚家とはどのような位置づけになるのですか。

尚 廃藩置県以前の沖縄では尚家を名乗る琉球王朝が沖縄を治めていました。尚を名乗る王朝は、第一尚氏、第二尚氏の二つの家系がありました。私達は第二尚氏の家系になります。第一尚氏は、沖縄本島を初めて統一した尚巴志の家系で、一四〇六年、尚巴志の父、尚思紹王を始祖とします。一四六九年、七代目の尚徳王が、薨去した時、その世子にかわって、尚徳王の父、尚泰久王の家臣だった伊是名島（沖縄本島の北西にある島）

出身の金丸が首里に迎えられ、尚徳王を継ぐ形で尚円王を名乗ったのが第二尚氏の始まりです。

一六〇九年、第二尚氏七代の尚寧王の時代に薩摩から攻め入れられ実質的に薩摩に支配されながら幕藩体制に組み入れられながら明国との朝貢冊封関係は継続するという一國二制度のような統治体制になりました。

薩摩が琉球国と明国への関係を維持させたのは、琉球貿易による利益を得るためです。一九代尚泰王時代に明治維新後の廃藩置県により沖縄県が設置され、尚本家は東京への移住が命ぜられ、侯爵という称号を頂きました。敗戦後華族制度が無くなり、二十三代目の自分の代からは、一般人となりました。

仲村 戦後一般人になったのは、何も尚家だけではなく、華族に列せられた藩主の家系全てですね。それは、連合国最高司令官総司令部（GHQ）の政策でなくなったということですね。

尚 はい、そうです。

仲村 第一尚氏と第二尚氏の血縁関係は無いのですね。





復帰50周年のイベント「前日祭」で挨拶する尚衛氏（令和4年5月14日、那覇市）

尚 はい、血縁はありません。第一尚氏と血縁は無いのですが、尚を名乗らないと明への朝貢を継続することができないので、同じ尚という名前を使うことになったのです。沖縄の尚家はある意味称号のようなものです。そういう意味では、第一尚氏から第二尚氏まで連続性はあると言えます。尚という称号が明治時代から名字として使われるようになったわけです。

### 尚本家が政治と距離をとってきた理由

仲村 尚本家は明治政府により東京に移住を命ぜられていました。それ以降、沖縄の政治とはできるだけ距離を取られてきたと推測していますが、実際のところ、どのように沖縄の政治とかわつてきたのでしょうか。

尚 明治維新以降、尚本家は東京で住まいを与えられ、職を得ていました。最後の琉球王、尚泰王は、華族に列せられて侯爵になり、貴族院議員になりました。次の当主の尚典も貴族院議員となっていました。実際は政治に携わっていたわけ

はなく、役職だけでした。そういった形で華族は生活費の補助金としての意味がありました。

私の記憶では、自分の二代前の尚昌はオックスフォード大学に留学し、帰国後は、宮内省の式部官となりました。大正九年には、父、尚典の薨去に伴い侯爵を襲爵し貴族院侯爵議員に就任しました。

仲村 戦後の尚家も政治には関わっていません。戦後ですが、それは戦後の占領政策なのか、日本政府の方針なのか、それとも尚家の意思なのか、でしょうか。

尚 私の父の代から「政治にはかわるな」というような考え方でしたので、分家では少し関わることはありましたが、本家では一切政治に首を突っ込むことはありませんでした。

### 琉球めぐる正しい認識

仲村 現在、沖縄の歴史本でも首里城などの観光地でもほとんど、「琉球王国」という名称が使われるようになっていきます。その呼称は、「沖縄は

かつて独立した国でした」という文脈で使われることが多いのが実情です。

私が調べた範囲では、戦前の古い本では、「琉球国」もしくは、「琉球」という呼称しか使われていません。「琉球王国」という呼称を使うようになったのは、沖縄県の祖国復帰前後と認識しています。尚家の認識では、琉球王国と琉球国どちらが正しいのでしょうか？

尚 尚家が保有している地図をみると琉球国と記述されていますので、「琉球国」が正しい呼称です。

仲村 「琉球国」と表現すると、薩摩国とか山城国と大きな違いはありませんが、あえて、「琉球王国」と呼称することによって、沖縄は日本とは大きく違うというイメージが浸透してしまっています。薩摩支配下の中では、尚寧王の次の代の尚豊王は薩摩からは「琉球王」ではなく、琉球国司としての称号を与えられています。

薩摩にとっては日向国や大隅国などに加えて、薩摩七十二万石の中の十二万石を支えた一つの領地なのですが、清国に対しては、朝貢冊封関係を



第二尚氏歴代の王が眠る玉陵で、執り行われた尚本家による御清明祭。尚衛氏が平成30年4月6日に40年ぶりに復活させた。

継続しているため琉球王の称号は「中山王」のままです。この二重の称号をもっていたのが、琉球の歴史認識を複雑にしています。琉球国については、廃藩置県により琉球王国は滅ぼされたというイメージで語られることが多いです。しかし、沖縄県の設置後も、尚家もご存命ですし、琉球国の民が明治政府に虐殺されたという歴史も存在しておりません。尚家として琉球王国が滅びたという表現をどのように受け止めますか？

尚 「琉球が滅びた」という表現は誤解を生む間違った表現だと思っています。琉球国は戦争で滅びたわけではありません。廃藩置県により琉球は日本に取り入れてもらった。つまり、併合されたわけです。

尚泰王は日本に帰属したほうが良いと決断されて、明治五年、伊江王子を慶賀使として、東京に送り、明治天皇から琉球藩王に封じられました。その後、琉球復国運動に利用されることを回避するために尚本家は沖縄を離れ東京に移住することになったのです。

尚家の人は明治政府が面倒をみるから東京に住んでくださいということになり、千代田区富士見町、靖国神社の隣に住むようになったのです。尚家の屋敷は関東大震災で焼けて、渋谷に住むようになりました。ただし、尚家の分家は沖縄に残っていました。

尚本家が沖縄に帰ってきたときに住むところとしては、中城御殿がありました。廃藩置県後も尚家は存続し、本家は東京、分家は沖縄を拠点にして生活してきたのです。

## 国連による先住民族とする勧告

仲村 国連では、二〇〇八年より、琉球沖縄の人々は先住民族であるという趣旨の勧告が、合計五回も出されています。日本政府は、その度に否定していますが、国連はいまだにウチナンチュを沖縄の先住民族だと認識しています。その根拠には琉球王国の存在があり、廃藩置県により滅ばされたということが根拠となっています。尚家としては、この勧告をどのように認識していますか。

尚 まず、第一に勧告を受け入れることは出来ないうです。先住民族の定義があいまいです。あくまでも私たちは日本人です。オーストラリアのアボリジニや、アメリカ大陸のインディアンは、国家としては存在して成り立っていません。琉球はしっかり国家として存在していたわけです。沖縄に住んでいた人を先住民族とするのなら、世界各国、王国があるところは先住民族となりますね。

重要なのは、一体誰が国連に対して沖縄の人々が先住民族だと提言したのかということ。何を根拠に訴えたのかその人達に聞いてみたいですね。そのところが全然わからないです。日本政府もきちんと反論して、一日でも早く国連の認識を改めさせていただきたいです。

仲村 非公式ではありますが、中国が琉球は我々の領土だといっています。

尚 一言でいうと、勝手な言い分です。中国は沖縄はもと中国に属していたといいますが、沖縄が琉球国だった時代に、中国（中華人民共和国）は、存在していなかったのです。琉球国が付



き合ったのは明国と清国だけです。中国の建国は戦後です。歴史書にも日本政府もそのように表現してもらわないと困ります。誤解を招きます。

### 日清両属という表現

仲村 江戸時代の琉球は日清両属の地位にあったという表現がよく使われ、琉球は日本の薩摩にも属していたが、明国や清国にも属していたという表現を歴史学者がよく使います。しかし、琉球にあった薩摩の在番奉行のような出先機関を清国や明国が持っていたわけでもなく、明や清の法律が琉球に適用されていたわけでもありません。明や清に税金を納めていたわけでもありません。

ですので、私はこの表現は大きな問題があると思います。安易に両属という言葉をつかうと、琉球は半分外国に支配されていたという大きな誤解を与えてしまうと思います。この表現については改めるべきだと思えますが、どのように思われますか？

尚 両属は間違いですね。琉球は明にも清にも属

化という位置づけとして普及させたほうが良いと思っております。尚当主は、琉球文化は日本の文化なのか。日本文化とは全く違う文化なのか。このあたりの認識はいかがでしょうか。

尚 思うところは、一線を引いて考えないといけない、そのことが重要だと思っております。沖繩の文化は独特のものがあり、それをずーっと残して今まで以上に発展していただきたいと願っています。若い人が沖繩の文化を残す活動をはじめるといことも聞くようになりまして。そういうところでも協力して、どのように継承していったら良いのか。琉球は一つの国であって琉球文化はその象徴になるのだと思っております。かといって、日本文化と対立したり、喧嘩をふ

していません。ただ、良い付き合いをしていただけてです。

仲村 朝貢冊封はあくまでも貿易の手段であって、明国や清国に属していたわけではないと思えます。

尚 朝貢冊封は今で言う外交ですね。仲村 そうですね。セレモニーをしているだけです。

尚 これからも仲良くしましょうねといつて、では、これがお土産です。では、お土産をもらって帰りましょうというのがお付き合いでしたから。

### 独自文化か、独立した文化か

仲村 琉球文化は大切ですし、継承していくべき大切な文化だと思っております。しかし、琉球文化は独立した文化、日本とは異なる文化だという趣旨の使われ方をし、沖繩を日本から分断させる工作に利用される場合もあります。

そこで、私は純粋な沖繩県民が騙されないために、琉球文化は日本から遠い南の島に花咲いた文

つかけたりするわけではありません。両方いいところをとりあって良いところを継承していけば良いと思えます。今の沖繩の文化は昔あったものの上に新しい文化が積み重なって存在しています。

仲村 私は、琉球文化の普及について心配しているところがあります。例えばしまくとぅば連絡協議会という団体がありますが、沖繩の言葉は独自の言語である、つまり外国語であるとし、国連勧告による言語権に基づいて普及させるといいう理念を掲げています。これは、ウチナンチュの日本人としてのアイデンティティーを破壊する巧みな分断工作だと警戒しております。実際は、沖繩の方言は、日本の古語を最も残す古い日本語であります。尚 私は復帰五十年の式典の前日、那覇市内で開

**武藤記念講座**  
大阪：武藤記念ホール  
地下鉄谷町線天満橋下車3番出口3分  
(大阪城方面出口)

令和四年八月六日(土)午後一時三十分～三時三十分  
「中国の経済政治情勢と新しい冷戦の展開」  
ポストウクライナ戦争の国際情勢を踏まえて、直近の最新情報に基づいて、中国国内の経済政治情勢と、現状報告、深層分析を行うと同時に、中国を取り込むシナリオの現状と、日中関係の最新動向をレポートし分析を行う。こうした上で、日中情勢と国際情勢の行方を予測し、ポストウクライナ戦争における台湾有事の危険性について警告を発し、日本の取組み対応策について提言する。

講師 外交評論家 石平氏

**叢書別冊**

**武藤治太の「繊維の街、大阪」**

国民會館会長の武藤治太が、季刊雑誌「大阪春秋」に11年間にわたり連載した、ふらりひょうたん「明治大正から大阪戦後の高度経済成長へと「せんい産業」が織りなす政治経済から文化芸術の物語を「繊維の街、大阪」として上梓しました。

別冊 A5判 398頁 2,750円(税込・送料別)

お申し込みは下記まで  
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-2  
公益社団法人 国民會館  
TEL.06-6941-2433  
FAX.06-6941-2435

催された民間団体の「前日祭」で「琉球文化や沖縄方言を学ぶことで、日本との対立をあおるような動きが時々みえます。それは、私たちが願っていることの対極にあり悲しいことです。琉球文化を継承発展させることが、日本の発展につながるものでなければならぬと思っています」と述べました。分ける必要はないのです。先程私はまず一線を引いて考える。そのことが重要だ、と述べましたが、そういう点です。

**仲村** 四十七都道府県の中で沖縄県民は最も郷土愛が強いと思います。どこにいてもウチナーンチュ意識が強いです。それはほぼ間違いないと思っていますし、素晴らしいことだと思います。しかし、今はその純粹な郷土愛が琉球独立に利用されてしまっています。それを避けるためには、郷土文化である琉球文化を学ぶと同時に、郷土愛を育むと同時に、日本人としてのアイデンティティ、日本人としての誇りを持つ教育をバランスよく行っていかなければならないと思います。私は琉球国時代の沖縄は地理的条件、外交的要件が日本本土と異なるため、明国や清国の影響を

強く受けて独特な文化を発展させましたが、その深いところに流れる基層文化は日本と全く同じだと認識しています。ですので、実は琉球文化を学ぶことが日本文化の理解を深めることだと思っています。

**尚** おっしゃるとおりですね。

**仲村** 五十周年記念で、沖縄の方々に対するメッセージをお願いします。

**尚** 沖縄の方々には、琉球国の歴史を大事にしなから、ゴタゴタができるだけ少なくなるように頑張っていたきたいと思います。沖縄は観光が大切ですので、もっと受け入れるように努力していただければありがたいです。

**仲村** 沖縄県外の方々にメッセージがありますか。

**尚** 県外では沖縄のことを誤解している方も多くですね。何かあるとすぐに、「沖縄人は…」とレッテルを貼って評価する人が少なくないです。是非、沖縄の文化を深く学んで、沖縄の人と一緒に沖縄の発展のために力をお貸しいただければありがたいです。